

知事談話

- 1 本日、4月1日付けで総数、1,294人の人事異動を発表いたしました。

平成22年度は、龍馬伝の追い風も生かして、産業振興計画の推進などの県勢浮揚に向けた取組を加速し、更に一つ上のステップを目指す「挑戦の年」と位置づけています。

このため、これまでの実行段階で出た様々な課題にも迅速かつきめ細かに対応できる、挑戦の年に相応しい組織体制の整備と職員の配置に努めました。
- 2 庁議メンバーについては、平成21年度に大幅な交代がありましたことから、異動は小規模なものとなっています。

なお、平成18年度以来、4年ぶりに女性の庁議メンバーが誕生しました。
- 3 若手職員の幹部ポストへの登用、将来の県庁を担う人材の昇任・昇格、経験のある人材の適切な配置等により、引き続き「活力と経験」のバランスがとれた体制といたしました。また、人材の活用と育成、組織の活性化の観点から、職種にとられない配置や女性職員の積極的な登用も行ったところです。
- 4 組織体制については、産業振興計画を力強く推進するため、水産振興部の副部長を2人体制にするほか、畜産振興監の新設や副部長職との兼任であった高知市地域の地域産業推進監を専任化します。

また、地産外商戦略の加速化や地域の中核として産業を支える人材の育成・確保などのため、産業振興推進部の体制を強化しました。

さらに、追い風である龍馬伝、現在好評を博している「龍馬博」などの成果を一過性のものに終わらせず、本県観光の目指す「400万人観光」の実現を目指すため、イメージ戦略や広域観光の組織づくり、ブロック毎にもう一泊宿泊できる観光地づくりなどに取り組むため、観光振興部の体制を強化しました。

このほか、「まんが王国・土佐」のブランド化を図るとともに、本県の様々なコンテンツを産業に生かすコンテンツビジネスの創出を図るため、「まんが・コンテンツ課」を設置します。

「日本一の健康長寿県構想」では、地域保健関係業務を一体的に行うための体制強化や、医師確保推進監の新設、医師確保業務を進めるために設立した一般社団法人高知医療再生機構に、職員を派遣することとしています。
- 5 また、引き続き、国や他県、民間への職員派遣を行いますほか、市町村との職員交流を積極的に行うこととし、市町村の課長級への2名を含め14名の職員を派遣するとともに、市町村からの職員の受入を今年度の10名から18名にほぼ倍増しました。
- 6 県民の皆様が、将来にわたって希望を持って安心して暮らせる県としていくために、引き続き、官民協働型の県政運営を進めてまいります。今回異動する職員はもとより、全ての職員が何を達成しなければならないのかを常に意識し、強い意志とスピード感を持ってそれぞれの職務に主体的に取り組んでくれることを期待しています。